

国際社会学部

米谷匡史

Yonetani Masafumi

コース／現代世界論

社会思想史・日本思想史



元来の専門領域は、戦時期日本の社会思想（日中・太平洋戦争期の「東亜協同体」論・「近代の超克」論・「世界史の哲学」など）。

講義・演習では、近代日本思想とアジアの関係、植民地帝国日本の文化的葛藤、近代日本社会とマイノリティ、などについて幅広くとりあげています（朝鮮・台湾・満洲・沖縄・アイヌ民族・在日朝鮮人ほか）。

※右上の写真は、日中戦争期に中国問題の批評家として活躍し、ソルゲ事件で刑死した尾崎秀実。

研究紹介

- 戦後日本における植民地主義批判の生成—鶴見俊輔と鈴木道彦の場合（韓国語）、ソウル大学校日本研究所『日本批評』、27号、2022年
- 「帝国」のメディアと文化工作のネットワーク—中日戦争期の文化抗争（韓国語）、ソウル大学校人文大学・東亜文化研究所『東亜文化』、59号、2021年
- 三・一独立運動、五・四運動と帝国日本のデモクラシー、歴史教育者協議会『歴史地理教育』、891号、2019年
- 〈運動体〉谷川雁の軌跡—1965年前後の屈折、谷川雁研究会機関誌『雲よ—原点と越境』、3号、2010年
- 植民地／帝国の「世界史の哲学」、日本思想史学会『日本思想史学』、37号、2005年
- 矢内原忠雄の〈植民・社会政策〉論—植民地帝国日本における「社会」統治の問題、『思想』、945号、2003年
- 三木清の「世界史の哲学」—日中戦争と「世界」、『批評空間』、Ⅱ期19号、1998年
- 戦時期日本の社会思想—現代化と戦時変革、『思想』、882号、1997年

担当授業

- 東アジアの中の日本史
- 近代日本思想とアジア
- 近代日本社会とマイノリティⅠ・Ⅱ
- アナーキズムの思想と運動—大杉栄の社会思想（大学院）
- 沖縄の思想（大学院） など

関連する分野

- 社会思想史
- 日本思想史

出版物

- 共著『アジア人物史 第11巻 世界戦争の惨禍を越えて』（集英社、2023年）
- 共著『思想史講義 戦前昭和篇』（ちくま新書、2022年）
- 共著『植民地知識人の近代超克論』（韓国語、ソウル大学校出版文化院、2017年）
- 共編著『1930年代のアジア社会論』（社会評論社、2010年）
- 共編著『谷川雁セレクション』Ⅰ・Ⅱ（日本経済評論社、2009年）
- 共著『沖縄／暴力論』（未来社、2008年）
- 単著『アジア／日本』（岩波書店、2006年）
- 編著『尾崎秀実時評集』（平凡社・東洋文庫、2004年）



国際社会学部

社会文化論ゼミ

(近代日本社会とマイノリティ)

どのようなゼミか

専攻言語・地域をこえて、近代日本とアジア（中国・朝鮮・台湾ほか）の関係、植民地状況におかれたマイノリティ（沖縄、在日朝鮮人、アイヌ民族ほか）の問題、植民地の歴史・思想・文化などに関心をもつ人たちが集うゼミになっています。

演習では、近代日本社会とマイノリティ、近代東アジアの植民地にかかわるさまざまなテキストを講読します。植民地／帝国の矛盾・葛藤をめぐるポストコロニアルな文化研究などの成果を吸収しながら、トランスナショナルな歴史・文化・社会認識の方法を身につけることをめざします。

卒論指導

近代日本とアジア（中国・朝鮮・台湾ほか）の関係、植民地状況におかれたマイノリティ（沖縄、在日朝鮮人、アイヌ民族ほか）の問題、植民地の歴史・思想・文化などに関連するテーマで、論文指導をおこないます。

既習言語の指定は特にありません。さまざまな専攻語・専攻地域から学生が集まっています。

なお、沖縄、在日朝鮮人、アイヌ民族の歴史・思想・文化について、予備知識はなくても大丈夫です。高校までの学校教育では、マイノリティの歴史や思想について、学習する機会が乏しいため、予備知識がないのは当然です。

ゆっくりガイダンスをしながら、テキストを読む演習に入っていきます。

卒論

- 植民地朝鮮における日本語文学
- 台湾における植民地近代と歴史認識
- アイヌ文化の再定義とアイデンティティの再構築
- 沖縄の「反復帰」・自立の思想
- 在日朝鮮人の文学とアイデンティティ
- 在日朝鮮人の民族教育と多文化共生論
- 濟州島4・3事件の記憶と文学
- 日韓条約をめぐる反対運動と歴史問題
など

おススメの本

- 竹内好『日本とアジア』
(ちくま学芸文庫、1993年)

アジアと日本の絡まりあう近代経験、連帯と侵略の二重性について、正面からとりくんだ中国文学者・竹内好の評論集。「近代の超克」「日本のアジア主義」など重要な論考が収録されています。近年、竹内好の著作は、中国語・朝鮮語・英語などにも翻訳されて、読みなおされています。

